

れた気持ちである。これから先我々の運命はどうなるのか、勿論内地（日本）へ無事帰る等とは考えられない状況であった。

後になって我々が終戦を聞いたのは、八月十五日「天皇陛下」が国民に敗戦のラジオ放送をされてから、十日後のことであった。

我々は終戦を知らずに十日間位、毎日炎暑とたたかいながら必死の行軍を続けていたのであった。



『表紙解説』

虫供養地蔵

佐伯市堅田の下城地区、山王公園内に祀られていた地蔵堂が雨漏りがひどくなり、地区のお年寄りが話し合つて新しく建て替へることになり、壊してみると地蔵塔の光背の裏面に金石文が彫られていた。それには

「堅田村中蜂蝗供養佛施主□人 荻苜清兵衛」

元禄八己亥年（一六九五）三月吉日

とあり、他に堅田村十一カ村名と各庄屋の名前、その下に百姓中と彫つてある。

この塔は毎年各地で行われていた虫送りや、捕殺などで犠牲になった虫類を堅田村中で供養するために建てたもので、昔は中山峠に造立していたものを、道路拡張の邪魔になるので現在の場所に移動したという。毎年、春には近くの信者が供物を供え、地蔵尊の前で供養祭りが行われている。

解説 五十川千代見

佐伯地方の虫供養については稿を改めて発表したいと考え、目下鋭意調査中です。